

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立川登中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○評価項目の12項目中9項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。」については、現在の受動的な意識から能動的な意識へと成長させる必要がある。そのために、授業と連動した課題やより効果的な自主学習ノートの在り方など、生徒各自が家庭学習の質を高める方策を講じていく。 「部活動の推進」については、部活動の入部者が少なくなっているのが実情である。部活動の充実を目指すために、武雄市の方針に沿って地域部活動への移行を視野に入れ効果的な部活動運営の推進を図る。 「校務の効率化」については、時間外勤務の月平均は約35時間であり、年度当初より短くなっている。さらなる効率化を目指すために、行事や会議の精選等を引き続き模索していく必要がある。 <p>○今年度、新たに取り組んだ内容について、特に効果が出てきている項目については、引き続き重点項目として取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践」について、今年度は「対話学習を取り入れること」を中心に取り組んだ。朝の会や帰りの会での「継続的なコミュニケーション活動(川中タイム)」を行うことで、生徒たちの意識の変容が見られ効果が出てきている。来年度も引き続き全職員の共通理解・共通実践のもと、思考力・判断力・表現力の向上に努める。 「ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫」については、肯定的な回答が多い。特に、生成AIを活用した授業など最新技術も積極的に導入することにより、業務改善、授業改善にも効果が出てきている。働き方改革や個別最適な学び、協働的な学びの充実のために、引き続き活用していく。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	(1) 豊かな人間性と社会性の育成 (2) 確かな学びの充実 (3) たくましく生きるための健康の推進 (4) 地域との共生と郷土愛の醸成

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

重点取組	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○生徒にとって魅力的だと思えるようにめあての提示と教材を工夫し、学ぶ意欲が高まったと回答する生徒の割合を70%以上にする。	○「めあて」の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 教材については課題の難易度を意識する。								・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任
	○思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践	○「対話学習を取り入れたことで、自分の考えが深まったり広がったりした」に、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	○「対話学習」については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。 ○「結論」「根拠」「理由」を明確にして自分の表現させる。								・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。	○学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を、学期の当初に1回ずつ設定する。 ○家庭学習において、課題の出し方を工夫する。 ○小中連携アンケートを参考に、生徒、保護者に呼びかけ								・学力向上対策 コーディネーター ・教務主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研修会を年1回以上実施する。	○道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 ○講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を行う。								・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を80%以上にする。	○早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、こまめに情報交換を行い、共通理解する会議も月に1回設ける。 ○いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。								・生徒指導主事
	◎生徒が夢や目標をもち、実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上にする。 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上にする。	○1年生は職業調べや職場見学などを通して、2年生は職場体験などを通して、3年生は全校のリーダー的行事、立志式などを通して、将来の夢や目標について考え、深める機会をもつ。 ○1月に、全学年の生徒に、今年の抱負や目標を決めさせ、夢を実現させるためにはどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しをもたせる。								・進路指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「朝食をとって登校する」生徒の割合を90%以上にする。	○朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を学期に1回以上行う。 ○月ごとに食育だよりなどで家庭への協力を呼び掛ける。								・食育・給食担当
	●健康を考えて行動できる能力の育成	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に生かしている」と答えた生徒80%以上にする。	○各学期に保健の授業を行い、実生活に役に立つ知識を提供する。								・体育主任
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生徒の割合95%以上にする。	○顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 ○臨場による指導を増やし、練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。								・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	○定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定をする。 ○これまで作成されたデータの有効活用を行う。 ○校務分掌の細分化および輪番制により負担を軽減する。								・管理職
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	○朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 ○時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。								・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性や意識が向上したと回答した教員80%以上にする。	○特別支援教育に関する研修会の実施 ○ケース会議の開催、関係者間での情報共有								・特別支援教育担当

重点取組	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○「先生たちはわかりやすい授業にするためにICT機器を積極的に使っている」と思う生徒・保護者の割合を9割以上を目指す。	○電子黒板と生徒用タブレット端末を活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。 ○タブレット端末の活用の仕方や生成AIの活用についての研修を行う。								・情報教育推進教員
	○地域と学校の協働による学校づくり	○地域人材を活用した授業や行事を年1に5回以上実施する。 ○情報公開を推進し、学校HPの更新回数を月に5回以上行う。	○学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 ○地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 ○学校HPや配信メールにより、常に新しい情報を豊富に提供する。 ○学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。								・教頭 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--